

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5 年 5 月 1日

事業所名 ほっこの里

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	80%	20%	個別での支援を必要とするお子さんに合わせ、個室の提供も行っています。	1人1人が伸び伸び活動できる環境を大切にします。
	2 職員の配置数は適切である	80%	20%	お子さんの支援の必要さに合わせ、適切な職員数を配置している。	お子さん、職員が負担とならないように配置数を確保していく。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%	施設内はすべてバリアフリーとなっています。	物の配置などにもお子さんに合わせ配置していきます。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	20%	80%	職員間の連携を大切に、向上心をもって支援に取り組めるよう、日々の話し合いを大切にしています。	全職員が参加できる時間帯のセッティングなど、組織の成長に前向きになれるように工夫していきます。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	80%	20%	保護者からの意見を、気付きや学びのきっかけであることを、職員間で認識、共有しています。	業務改善できている所、できていない所をもっと明確にし、職員1人1人が日頃より、意識しやすいようにします。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	80%	20%	ホームページで公開することでも閲覧できるようにしています。	保護者への周知方法をお知らせをつくり改善していきます。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	20%	80%	前回第三者評価をうけてから、期間が経つ為、再度評価を受けれるよう進めています。	定期的に第三者の評価を受けていきます。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	80%	20%	研修後は、フィードバックができる様式をつくり、学びの強化も意識しています。	研修後は毎回、事業所内での周知の機会(事業所内研修)を設けることができるように進めます。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	80%	20%	個別支援計画書の作成の際は、お子さんがわくわくできる内容を心がけている。	個別支援計画書の評価や振り返り、改善を繰り返し、サービスの質を高めていく。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	60%	40%	成長に合わせた対応を心がけております。	お子さんに合ったアセスメントツールを模索していきます。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	60%	40%	お子さんの成長に合わせて、参加できる幅を広げています。	参加できない職員に対しては、書面で参加できるように工夫するなど、プログラムをチーム全体で立案し、足並み揃えています。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	80%	20%	季節の行事毎も取り入れてます。	活動の目的や目標など、お子さんに伝わることも大切にします。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	60%	40%	長期休暇時は長時間のお預かりとなる為、リラックスできる時間も大切にしています。	学校の行事などで、お子さんの頑張りや疲れなどその時の状況に合わせた支援を心がけていきます。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	負担にならないように、お子さん同士の繋がりがりも大切にしています。	集団が苦手なお子さんでも、安心して集団活動の場で過ごせる配慮を欠かさず行なって参ります。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	80%	20%	朝礼の際に、前回支援の振り返りなども取り入れています。	役割を表にするなど視覚的に把握でき、職員1人1人が支援しやすいように工夫し、お子さんの支援を円滑に進められるようにしていきます。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	20%	80%	振り返りの中で、他職員の意見を否定せず、尊重することを心がけています。	気付きをそのままにせず、実際支援で活用できるように、チーム間で声を掛け合いながら進めて参ります。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	60%	40%	記録は詳細に、支援員の所見だけでなく、今後の対応なども記載するようにしています。	支援記録のポイントなどリスト化し、支援の進捗具合など、職員それぞれが把握しやすい仕組みづくりをします。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	60%	40%	モニタリングは必ず対面で行い、電話などで済まさないようにしています。	お子さん、ご家族との繋がりを今後も大切にしていきます。
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	60%	40%	家事訓練など自立に向けての活動も踏まえるようにしています。	ガイドラインの総則を参考に活動に幅を持たせていきます。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	60%	40%	その児童に合わせた職員の参画を大切にしています。	縦横の連携を大切に進めて参ります。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	80%	20%	学校側からの情報だけでなく、放課後デイでの様子も共有しています。	縦横の連携を大切に進めて参ります。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	100%	現在、対象のお子さんがいませんが、必要に応じ連絡体制を整えます。	医療的ケアを必要とするお子さんを受け入れる場合は、主治医・関係機関との連携を取らせて頂きます。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	60%	40%	実際に支援の様子を見学させて頂いたり、支援内容を引き継いで進めることを心がけています。	事業所単体でなく、幅広い視点での情報共有に努めます。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	80%	20%	卒業後の相談も受け付けており、定期的に電話での対応もさせて頂いています。	正しい情報の伝達を大切に、支援者の所感とならないように注意します。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	60%	40%	市内で開催される研修には毎回参加しています。	研修などの情報にアンテナをはり、専門性を高めて参ります。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	60%	40%	長期休み時など、職員のお子さんを受け入れたりと、交流に幅を持たせています。	地域交流スペースを設けている為、今後地域のお子さんを対象に学習室を開放するなど、より多く交流の機会をつくっていきます。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	20%	80%	部会についての情報など、職員間で資料の配布など周知しています。	令和4年度サービス管理責任者等更新研修にて、自立支援協議会への参画の仕方など情報を得ることができたので、今後は積極的に事業所側からのアプローチを行っていきます。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	お子さん1人1人の成長に合わせることを大切にしています。	半年に1度のモニタリングだけでなく、送迎時などご家族とのやりとりを大切にしていきます。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	20%	80%	ご家族の頑張りなども職員間で共有しています。	事業所内での研修開催時にご家族の参加を促すなど、ペアレント・トレーニングとなる機会をつくっていきます。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時だけでなく、その都度説明をさせて頂いています。	定期的にご不明な点がないかなど、事業所からアプローチしていきます。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	ご家族の頑張りに着目しています。	適切な助言ができるように、職員一同専門性を高めて参ります。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	100%	フェスティバルの開催など行っていました。コロナ渦より中止となりました。	保護者会の設置にむけて準備を進めて参ります。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	80%	20%	日頃からの信頼関係の構築を大切にしています。	苦情があれば、事業所内で検討会議を開催、改善策の提示を行います。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	20%	80%	SNSを活用し、活動の様子を発信しています。	SNS利用者でなくても、取り組みや情報を周知できる仕組みをつくっていきます。
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	鍵付きのキャビネットにて保管しております。	全従業員に定期的に個人情報の取り扱いについて周知していきます。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	絵カード交換式コミュニケーション方法の研修を受けており、必要に応じて家族間の意思疎通のフォローを行います。	お子さんとご家族の関係性へのフォローも行えるように、引き続き専門性を高めて参ります。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	60%	40%	新施設を立ち上げ、地域交流スペースを設置しています。	地域交流スペースを運用し、地域との繋がりを日常化できるようにします。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	0%	100%	お子さん1人1人の緊急時の情報、写真などすぐに確認できるように保管しております。	マニュアルの見直し、改善を定期的に行っています。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	毎月避難計画を立て、避難訓練を実施しています。	訓練の反省、改善を繰り返し行っています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	20%	80%	虐待防止委員設置のもと、虐待に繋がり得る対応を職員間で共有、認識しております。	事業所だけでなく、第三者の意見なども取り入れ、事業所の風通しをよくしていきます。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	20%	80%	安全上、車いすの固定ベルトなど身体拘束を必要とする場合は、ご本人、ご家族と相談のうえ、個別支援計画書に記載し行う場合があります。それ以外は行いません。	安全の為の身体拘束であっても、記録は必ず残し、必要性の判断も事業所だけでなく、主治医など第三者の意見を取り入れていきます。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	契約時にアレルギーの確認は必ず行っております。	初期調査だけでなく、日々アレルギー反応がないかお子さんの状況に注視していきます。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	0%	100%	ヒヤリハットの記載は欠かさず行っている。	コロナ渦や職員体制の変化など、検討会の開催が不定期となってしまう為、早急に体制を立て直し、検討会を行っていく。